

4. 地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム

本プログラムでは、国公立大学が全国8地区（北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中・四国、九州・山口）における薬学人材養成教育を担う拠点として、地区内の大学及び医療関連機関との有機的な連携体制の構築し、これに基づいた学部・大学院における薬学人材養成教育の高度化・実質化、社会人教育・社会貢献活動の充実、改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実務実習の実施体制の整備を行うことにより、地域における医療の充実・発展を推進する。

本プログラムは他の4プログラムとは異なり、本事業で国公立大学が開発・実施している教育研究プログラム等の地域さらには全国での推進を目的とするものであり、前事業の「先導的薬剤師養成アドバンスト教育プログラム」や本事業「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」の地域への普及や、地域医療の高度化に向けた連携教育研究事業の企画・推進、全国的な普及が挙げられる。これまで国公立19大学は、全国8地区においてそれぞれ地域の病院や薬局との連携のもとに、薬学実務実習を主導し、また地域医療の発展を担ってきた。本事業では、こういった連携体制と実績を基盤として、薬学人材養成教育を担う拠点の構築と教育研究プログラムの普及・定着による推進を目指すものである。

【2024年（令和6年）度】

<富山大学>

○早期介護体験実習（*）

・学部生を対象。1年生次に医薬看の学科の学生の混成チームとなり、福祉施設や慢性期病棟を持つ病院にて、1週間の実習を受け、地域医療での医療人また、その中でも、薬剤師の役割を学ぶ。

○北新のシームレスながん医療を担う人材養成（次世代のがんプロフェッショナル養成プラン）【連携】

・大学院生を対象。我が国におけるがん医療の推進を目的としており、国公立の6大学（金沢大、富山大、福井大、信州大、金沢医大、長野県看護大）で、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システムを構築する。薬学系では、大学院生・地域の薬剤師を対象とした教育プログラムを実施している。

<金沢大学>

○身近な薬草勉強会

・学部生、大学院生を対象。本学の附属薬用植物園は国内でも随一の面積を誇る。様々な薬草が栽培されており、薬草への理解を深めるための勉強会をおよそ月1回のペースで行っている。学生のみではなく、地域住民にも公開しており、地域住民とのコミュニケーションも図りつつ、そのニーズを知る機会となっている。

<岡山大学 >

○津山洋学資料館学外研修（*）

・2024年9月26日、本学1年生を対象に津山洋学資料館での学外研修を実施した。学内から公募し、薬学科（6年制）22名、創薬学科（4年制）18名の計40名が選抜された。津山洋学資料館では、幕末から明治期にかけての医学・薬学・科学の歴史を学ぶとともに、昼食時には大学院進学に関する説明を現役の大学院生から行った。終了後のアンケートでは、参加の満足度は66.7%の学生が満点を選択し、大学院への進学を検討する程度についても53.8%の学生が満点を選択した。その他、「医学・薬学・科学への強い探究心をもって生涯研究に従事したい」や「海外の情報に触れ、自身も発信していく重要性を学んだ」などの参加者のコメントがあり、1年生という早期から研究全般のマインドを醸成するために非常に有意義な会であった。

○アンチエイジング医療研修

・2024年9月5日、10日、12日および19日に、本学学部生を対象にアンチエイジング医療研修を実施した。会場は本研修の担当者の研究室で行い、学内の公募に応募した18名の学生が参加した。研修では、参加者自身の血圧、HbA1c、血管老化偏差値、皮膚自家蛍光値および尿中8-OHdG/Crを測定し、参加者一人一人の現在の糖化速度や、酸化ストレス度合も数値化して同年齢の参考基準値と比較した。各参加者にインタビューした生活習慣と照らし合わせて、現時点での生活習慣の問題点や、生活習慣の修正による改善策についてディスカッションを行った。参加者からは、地域医療における生活者の健康維持・疾患予防を含む健康サポートに積極的に貢献できる先導的薬剤師という観点から、各検査の原理、得られた結果の解釈を詳しく学ぶことができ、測定結果を根拠として、説得力をもって生活習慣の修正に活かせること、さらに老化・抗老化研究への興味を深めることができ、有意義な会であったことが報告された。

<九州大学>

○薬局実務実習における在宅医療実習

・社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師の育成を図ることを目的として、薬局実務実習において、学部生を対象とした在宅医療や終末期医療に関する実習を実施し、来年度実務実習を行う臨床薬学科4年生や薬局薬剤師も参加する報告会を開催しディスカッションを行った。

<長崎大学>

○長崎薬学コンソーシアム

・学部生、大学院生を対象。薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図るもの。2024年度は12月10日に定例会議を開催した。

<熊本大学>

○感染医療人材養成事業

- ・学部生、大学院生を対象。パンデミック下での大規模災害時に医療従事者が行うべき感染対策を討議・学習する3学科（医学部医学科、保健学科、薬学部薬学科）合同実習、シミュレーターを用いた薬学部生のワクチンの調製・投与（筋注）実習を実施した。また、感染症対策に関する外部講師による講義や手洗いトレーニングボックス グリッターバッグを用いた手指消毒の実習を行った。

○地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業

- ・学部生、大学院生を対象。熊本大学と崇城大学の強みと連携機関（九州保健福祉大学、各県病院薬剤師会・薬剤師会・行政）との関係を基盤に、南九州・沖縄地域のへき地・災害医療への対応ならびに薬剤師偏在の解消を目指し、自然とデジタルが調和した令和の薬剤師職能ロールモデルを提示するプログラムである。本年度は、「南九州薬剤師地域偏在検討会議」の実施、モバイルファーマシー実習、医療MaaS実習、地域の小学生を対象とした薬剤師1日体験学校、新型薬学シミュレーターのコンセプト提示などを行った。

<名古屋市立大学>

○ コミュニティヘルスケア卒前教育プログラム

- ・医療系学部（薬学部・医学部・看護学部）連携教育プログラム

本プログラムは、本学多職種連携教育の一環として、地域医療に貢献する医療人材育成を目的とした学部横断型の授業である。本プログラムは、薬学部1年生から6年間で順番にプログラム授業を10単位修得すると、プログラム修了証書が薬学部から発行される。

★1年生 医薬看連携地域参加型学習：薬学科76名（医学部97名、看護学部121名）★2年生 コミュニティヘルスケア基礎 薬学科67名★ 3年生 コミュニティヘルスケア 応用 薬学科19名★4年生 コミュニティヘルスケア発展 薬学科9名

<静岡県立大学>

○ 大学病院薬剤師シンポジウム

- ・信州大学医学部附属病院薬剤部・薬剤部長の内藤隆文先生の講義の後、大学病院での薬剤師業務の実際というシンポジウムを行い、山梨大学、信州大学、浜松医科大学の医学部附属病院の薬剤師から講義と質疑応答の時間を持った。

○ 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会

- ・学部生及び大学院生を対象に、医師や薬剤師を招聘し、最新の薬物治療を紹介する講義を実施した。

<和歌山県立>

○ (一社)和歌山県薬剤師会/和歌山県立医科大学薬学部共催研修会

- ・学部生を対象。地域薬学人材養成教育拠点形成プログラムの一環として、2024年10月に病院・薬局の薬剤師や企業の研究者等を対象とした学術交流と新設した和歌山県立医科大学医学薬学総合研究科の案内を実施した。多くの関係者の参加があり、和歌山県立医科大学における人材育成の拠点形成に資するセミナーとなった。

○ 第2・3回産官学連携準備セミナー

- ・学部生を対象。地域薬学人材養成教育拠点形成プログラムの一環として、2024年7月および2025年1月に県内の公的研究機関、製薬・食品・化学等関連企業を招いて、研究紹介や面談・情報交換の機会として産官学連携準備セミナーを開催した。多くの関係者の参加があり、和歌山県立医科大学におけるの県内の産官学連携及び人材育成の拠点形成に資するセミナーとなった。

<山口東京理科大学>

○ へき地の在宅医療実務実習

- ・学部生を対象。2024年度は山口県薬剤師会から推薦された2薬局を拠点として、へき地への在宅医療実務実習を実施し、実習終了後の指導薬剤師との意見交換、学生による到達度をリーブリック、日誌、プレゼンテーション資料により学修効果进行评估した。また、本学から5Gを活用し、へき地の在宅医療実務実習を行う学生へオンラインで服薬指導を実施した。